

安全管理

研修会報告

「平成11年度主任者年次大会」に参加して(番外編)

福井医科大学医学部RI実験施設

川 江 豊

8月26日と27日の2日間にわたり標記大会が北海道札幌市の札幌サンプラザにおいて開催されました(写真)。大会の詳細については前記事で紹介されていますので、ここでは私の北海道道中記を報告します。

25日の午後に旭川医科大学に入り、放射性同位元素研究施設の見学を行いました。旭川医科大学は新設の医科大学としては最初にできた大学で、施設の大きさは約800m²で増設はされていません。敷地に余裕のあるせいか2階建て(排気設備の部分は3階)で、有効に実験室が取ってありました。管理室は2階にあり研究棟とは渡り廊下でつながっています。入口に管理室があり、ここを通らなければ汚染検査室に行くことはできません。出入りは、カードで管理されていますが、時間外でも管理室を開けておかなければならず、防犯上の不安を感じました。同じ新設医科大学ということで設備はほぼ同じでしたが、旭川地域は地震がほとんど無いということで物品が

無造作に積み上げてあり、ガスボンベもそのまま立ててあるのには驚きました。また、3階の機械室に行くのに、2階廊下天井の点検口から梯子を使って上がらなければならず、排気設備の排風機も2台で、1台は動物室専用でもう1台で3系統のフィルターボックスを引いており、フィルターの目詰まりはどのように進むのか一瞬考えてしまいました。管理者が赴任したときには建物はできていたとのことで、設計段階での管理担当者の役割の重要性を痛感しました。ちなみにフィルター交換はクレーン車を使ってやるそうです。北海道の施設はどれも同じでしたが流しには給湯用の蛇口が必ず付いていました。排水設備も完全埋設型で漏水が心配とのことでしたが地上置きにすると凍結防止が必要になるのでしょうか。大学の建物はすべて2階の渡り廊下でつながれており、看護婦宿舎も50m位の廊下でつながれ、極寒の地であることを実感しました。

26日朝、前日の歓迎会の余韻を残したまま北海道の銘酒「男山」の製造所を見学し、札幌にJRで向かいました。旭川からの特急は30分おきにあり、1時間20分で札幌に行くことができます。宿舎を北海道大学内のクラーク会館にとっていましたので、チェックインをして長旅の荷物を置き、年次大会の会場へ向かいました。北海道大学の知り合いに聞いたら「札幌サンプラザまで歩いて30分位ですよ」と言われて、北海道大学の観光を兼ねて歩き出したのが間違いでした。北海道大学を抜けるのに30分かかり、さらに20分歩いてようやく会場に着きました。札幌駅より北の東西を走る道には北…条という地名が付いているのですが、北海道大学は北7条から23条にかけて広大な敷地を持っています。クラーク会館は北7条で会場は北24条ですから、地下鉄で2駅分以上を歩いたことになります。それも30度を超える猛暑の中を。会場に着いたときには総会も終わり、放射線安全課長の話が始まっていました。講演会場は約500名収容でしたがほぼ満席で、初めて北海道で開かれた年次大会として



写真 札幌サンプラザ

は盛況であったと思います。機器展示、ポスター発表の行われた入口ホールも広々として、ゆったりとした場所で行われました。1年ぶりに会う懐かしい顔も多く見られ旧交を温めることができました。

1日目の午前中は主任者部会総会、放射線安全課長の「放射線安全行政について」の講演があり、午後は「ICRP1990年勧告の国内制度への取り入れについて」「放射線影響研究の最近の話題」の2つの特別講演がありました。2日目の午前中は5つの分科会に分かれて討議が行われた後、「脂質分析を通して縄文人の生活環境を探る」の特別講演がありました。午後は主任者部会創立40周年を記念して、21世紀の主任者部会のあり方についてのシンポジウムが行われ、最後に年次大会のアピールが採択され無事終了しました。なお、来年は関東支部主催で筑波において、再来年は中部支部主催で行われることが決まりました。

27日の4時30分に年次大会も無事終わり、我々医系グループ25名は交流会と懇親会を兼ねて、ホテルのバスで小樽に向かいました。小樽までは高速道路で50分位で、綺麗な海に面した小高い丘の上のホテルに到着しました。天気は良かったのですがあいにく水平線に雲が垂れこめ綺麗な夕日とはならなかったのですが、太平洋側から来ていた人は感激して見ていました。その夜の宴会についてはご想像におまかせします。

28日の土曜日は快晴で午前中は小樽市内の見学を行いました。小樽と言えば運河とそれに沿った倉庫群ですが、観光客の数はすごいもので、沢山のおみやげ屋さんとともに非常に活気のある街でした。

午後バスで札幌市内に戻り市立札幌医科大学のRIセンターを見学しました。札幌医科大学は市内の中心部にあるため敷地が狭く高層化を進めており病院は18階建てになっていました。北海道大学が森の中にあるのと比べるとイメージはだいぶ異なります。RI本館の管理者は4名おり、面積は800m²程度で改築された基礎研究棟にそれぞれの階の講座が使えるように4階に分けて約400m²の増設を行ってしまし

た。9月から使用を開始するとのことで梱包が解かれた直後の実験器具類が所狭しと置いてあり、市立はお金持ちだと感心しました。各階には汚染検査室と実験室が2部屋ですがそれぞれの入口はカードシステムで管理し、エリアモニタ、ルームガスモニタが各階に、テレビカメラが実験室毎に設置してあり、本館の管理室で集中管理ができるようになっていました。貯蔵室と保管廃棄設備は一番下の階にあり、ダムウェイターで運搬を行うようになっています。

夕方には時間外にもかかわらず無理を言って北海道大学のアイソトープ総合センターと免疫化学研究所のRI施設の見学を行いました。総合センターは5階建てで各階に汚染検査室を設けてあり、金沢大学とほぼ同じ造りでした。各階の入口に「実験室立入・汚染検査記録」があるのでカードで管理していないのですかと聞いたところ、施設の入口はカードで厳重に管理しているが各階の入口はしていないとのことでした。また、時間外の使用を原則として認めていないとのことで、医学部のすぐ横にあるのによく不満が出ないな思いました。伝統(力)の差なのでしょう。免疫化学研究所は医学部の基礎研究棟の一角にあり、RIは150m²あるかないかの小さな施設でした。2日後に廃棄物の集荷があるとのことでバタバタしていましたがここにも専任の管理者が一人いてよく管理されていました。

29日は午前中サッポロビールの工場見学を行い、午後は北海道マラソンに医系グループから2名参加していたので、その応援を北海道大学前でしました。ちょうど30km地点で、日頃テレビでしか見ていない選手を身近に見て、また、体形は普通の人よりも小さいのにもかかわらずその走る迫力には感激しました。テレビ中継車が何台か通ったので写っていたかもしれません。

今年の北海道は例年になく猛暑が続き私が行っている間もほとんど毎日30度を超える日でした。30日になって昼でも23度位の快適な日になったのですが、名古屋に着いたら33度の猛暑で、まったく避暑にはならなかったことを報告して道中記を終えます。